

会 議 録

会議の名称	平成30年度第2回戸田市立地適正化計画策定委員会		
開催日時	平成30年11月7日(水) 18時30分～19時30分		
開催場所	戸田市役所5階 大会議室A		
委員長等氏名	(委員長) 中井 検裕教授、(副委員長) 大沢 昌玄教授		
出席者氏名 (委員)	別紙のとおり		
欠席者氏名 (委員)	市川委員、菅原委員、西塔委員		
業務受託者	株式会社地域計画建築研究所 山崎		
事務局	大熊部長、金子次長 早川課長 松本主幹、森谷主任、袋主任		
議 題	戸田市立地適正化計画(案)について		
会議の経過	別紙のとおり		
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・平成30年度戸田市立地適正化計画策定委員会委員名簿 ・戸田市立地適正化計画検討委員会及び策定委員会における意見 資料1 ・戸田市市民意識調査の結果に基づく計画目標値の設定について 資料2 ・戸田市立地適正化計画推進の体制 資料3 ・戸田市立地適正化計画(案)(本編) 資料4 ・戸田市立地適正化計画(案)(資料編) 資料5 ・『まちづくりフォーラム』～本当に住んで幸せなまちを目指そう～開催報告 参考資料1 ・戸田市立地適正化計画策定に係る検討スケジュールについて 参考資料2 		
議事録確定	戸田市立地適正化計画策定委員会 委員長 中井 検裕		

(会議の経過)

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
副委員長	<p>1 開会</p> <p>2 委員長あいさつ（所用により、遅れて参加のため割愛） （中井委員長到着まで、要綱に基づき大沢副委員長がその職務を代理する。）</p> <p>3 報告事項 「立地適正化計画に係る市民フォーラムの開催結果」「市民パブリックコメントの実施結果」について 参考資料1を用いて事務局から説明</p> <p>まちづくりフォーラムの参加者は、約100人とのことだが、市が開催する他のフォーラムと比較して多いほうであるか。</p>
事務局	<p>都市計画課が主催するフォーラムとしては、非常に多いほうであると考えている。本フォーラムについては、広報の他、ホームページやSNSなども活用して広くPRを行ったこともあり、多くの方にご参加いただくことができた。</p>
委員長	<p>4 議事「戸田市立地適正計画計画（案）について」 資料4を用いて、事務局から説明。</p> <p>誘導施設の休廃止に係る届出の時期が、休廃止の30日前と記載されているが、これを市が自由に定めることはできないか。</p>
事務局	<p>届出の時期については、都市再生特別措置法において定められていることから、変更することはできない。</p>
委員長	<p>30日前に届出がされたところで、誘導施設事業者においては、休廃止することが決まってしまうため、制度として意味をなさないのではないか。あくまで「遅くとも30日前」であり、少しでも早く、届出及び事前相談が行われることにより、早期に情報を得ることが重要である。もちろん事業者が移転することは自由であるが、市民にとって必要とされる施設が誘導施設であることから、少しでも早期に情報を得られない</p>

	か工夫してもらいたい。
事務局	届出に関するリーフレットを作成して、ホームページ等で周知を図っていく予定である。あくまで「遅くとも 30 日前」のスタンスで 30 日より前の段階から届出を促す内容としていきたい。
委員	届出者に対する情報提供とは、移転せずにとどまってもらうための情報を提供するという意味であろうが、30 日前の届出時点でそのような話をされてもとどまってはくれないのではないか。
委員長	例えば、誘導施設の所有者もしくはテナント等が変わる際に、都市機能誘導区域としてふさわしい利用を促すような機能・施設の斡旋、情報提供もあり得る。いずれにしても 30 日前では難しいと考える。
委員	立地適正化計画だけで説明されても分かりにくいものがある。例えば都市マスタープランとの関係の中で、人口減少や商業施設撤退などに対して市としてどのように対応していくべきかといった大きな捉え方の下、それに対して本計画では何をどのように誘導していくかを説明していくことが必要である。 私が住んでいる地域に対して、計画のうち何が関わってくるのかが良く分からない。市民パブリックコメントで意見が出なかったのは、それだけ市民の計画への理解が進んでいないということであり、計画の PR 等が不足しているのではないか。
委員長	計画公表後、市民に対してどのように周知を図っていく予定か。
事務局	都市マスタープランとの関係で分かりにくい部分があるかもしれない。両計画の関係、駅周辺と市全体の考え方などについて、分かりやすく伝えられるような資料を作成し、周知していきたい。また、問い合わせがあった際にも丁寧に対応していきたい。
委員長	是非願います。
副委員長	計画公表後、誘導区域外への立地に対する届出をチェックしていく体制が必要となる。計画公表＝計画運用開始であるため、今から準備しておく必要がある。 届出される時点では事業者は既に意思決定しているため、もっと前に

	<p>事業者が相談しやすい体制を構築することが重要である。それにより市外への移転ではなく市内への移転誘導を行うようなシステムがあっても良いと考える。計画を作ることがゴールではなく、策定・公表してからがスタートとなるため、計画の実行体制、受入れ窓口体制の構築をお願いしたい。</p> <p>また、本計画では交通に関しては、今後都市交通マスタープランが策定されるということもあり、あまり言及がされていない。超高齢社会を見据えた移動を支える仕組みがないと、土地利用は誘導できてもそこに移動できないということになってしまう。今後は、誰もが移動しやすい環境を提供していく必要が出てくるので、その点に留意しながら進めてもらいたい。</p> <p>高齢化が進行しているシンガポールでは、公共施設や生活利便施設を適切に配置していくことで得点を競うような学習ゲーム機を公的な施設内に設置するなど、子どもたちが遊びながら将来のまちのことについて学習できる仕組みがある。戸田市においても、小学校高学年くらいから自分のまちについて考えてもらう機会を設けることが必要ではないか。</p> <p>総合学習などにおいて、子どもが将来大人になった頃のまちの話を取り上げてもらうと、家庭内での話題になり、親も一緒に考えるきっかけにもなっていくのではないかと考える。</p>
<p>委員長</p>	<p>5 その他 「今後の予定について」</p>
<p>事務局</p>	<p>今後の予定としては、12月22日に市民説明会を開催し、来年3月に計画策定、4月に公表、運用をスタートする予定である。届出も同時に運用開始となるが、都市計画課が窓口となる予定である。</p> <p>6 閉会 「委員長、副委員長、事務局（都市整備部長）からのあいさつ」</p>
	<p>副委員長</p> <p>現在、我が国は人口減少下にあり、全国各地で立地適正計画の策定が進められているが、その中で戸田市の最大の特徴は、今後もしばらく人口が増え続けることである。</p> <p>立地適正計画を策定している地方都市の大半は既に人口減少が始ま</p>

	<p>り、進行し続けているが、戸田市においては、今後も人口が増加する見込みであり、いずれ減少に転じることが分かっている中で計画を策定することの難しさを抱えている。</p> <p>例えば、今後しばらくは、学校教室が不足することが見込まれていることに対して、その対策として、新たな学校を建設しても、すぐに不要になることが分かっていることである。つまり今後不要となることが明らかかな施設を作らざるを得ない状況に直面している。そのような中では、ある程度抑制しながら次の世代に余計な遺恨を残さないようにすることが重要である。</p> <p>そのために、本計画は、運用スタート後も市民からの意見もいただきながら適切に見直し、人口が減少し始めても、進行し続けても問題が発生せずに運用できる計画として、検討を続けていっていただきたい。</p> <p>本計画で用いている人口推計では、戸田市は2035年に人口減少に転じると予測されている。これからの期間は、2035年以降を見越して負の遺産を作らないことが重要で、それが本計画策定の理由の一つであると考えている。</p> <p>今後、戸田市においては、人口は増加するが、確実に高齢化は進み、率だけではなくて絶対的な高齢者数も増加していく。超高齢社会への対応を今から始めることが必要で、超高齢社会でどのように暮らしやすいまちを作っていくかは、2035年以降ではなく、実はもうすでに直面している課題であるといえる。本計画が目指すまちの姿は高齢者にとっても暮らしやすいまちであるとの考えの下、委員会でも議論いただきながらまとめてきたことから、まずは本計画を使いながら高齢化対策を進めてもらいたい。</p> <p>また、高齢化が進行すると、自ら自動車を運転する機会が減っていく。さらに高齢者の事故数も多いため、できるだけ安全に移動してもらうことが重要である。そのため、本計画における高齢化対応としては交通が非常に重要となる。本計画では交通に関する目標値を設定できなかったが、関連するモニタリング指標は定めており、また今後、都市交通マスタープランも策定される中で、高齢者の移動をどのようにサポートしていくかという観点を本計画の重要な部分と考えて、運用していってほしい。</p>
<p>委員長</p> <p>事務局 (都市整備部長)</p>	<p>委員長、副委員長をはじめ、委員の皆様には昨年度から全5回委員会に携わっていただき心より感謝申し上げます。計画策定がゴールではなく、これからがスタートとなるので、5年毎に見直しを行いながら、よ</p>

	り良いまちづくりを進めていきたいと考えております。 (19 : 30 終了)
--	---

(別紙) 平成30年度第2回戸田市立地適正化計画策定委員会 出欠席者一覧

区分	所属組織・役職等	委員氏名	出欠席
学識経験者	東京工業大学 環境・社会理工学院 建築学系 教授	中井 検裕	出席
	日本大学 理工学部 土木工学科 教授	大沢 昌玄	出席
戸田市町会 連合会	会長（下戸田地区）	金子 清視	出席
	副会長（上戸田地区）	市川 悦夫	欠席
	副会長（新曽地区）	駒崎 繁夫	出席
	副会長（笹目地区）	坂下 正直	出席
	副会長（美女木地区）	渡辺 侑造	出席
関係機関	とだわらび青年会議所	菅原 啓太	欠席
	戸田市社会福祉協議会	田中 庸介	出席
	戸田市商工会	田中 治夫	出席
公募市民	—	江崎 奈穂子	出席
	—	小森 昌樹	出席
	—	西塔 幸由	欠席